



柏崎市立博物館 学芸員

中野 純

NAKANO JUN

1968年 東京都八王子市出身
1993年 柏崎市役所職員となる
2021年 4月～
柏崎市立博物館の学芸員として勤務

訪れるたびに新しい発見や気づきをもらえる、そんな場所の一つに博物館がある。

昨年4月の異動で、9年振りに学芸員の仕事をすることになったと話す、中野純さん。現在の職場である柏崎市立博物館では、文化財の保護を担当する他、展示室の維持管理や企画展の展示作業などを行い、忙しい日々を過ごす。専門の研究分野は「縄文土器の型式と編年」だ。

中野さんは東京都八王子市出身。子どもの頃、絵本作家の伯父に連れられて近くの山や川へよく遊びに行った。拾った石や欠片を伯父は「それは土器、それは石器だよ」と教えてくれた。小学生の時、自転車で1時間以上かけて多摩ニュータウン遺跡群の発掘現場へ行き、いろいろな話を聞いて次第に遺跡や歴史、考古学に興味を持つようになった。大学では考古学を専攻、かつて多摩ニュータウン遺跡群で土器の話をしてくれた教授の下で学んだという。

中野さんが初めて新潟県を訪れたのは大学3年の夏休み、旧中里村（現十日町市）で干溝遺跡の発掘調査に参加しな

いかと大学の教授から声を掛けられた。大学卒業後も新潟県内に留まり遺跡発掘調査に携わった。

その後、柏崎市の職員に採用され、以後19年間、藤橋東遺跡群、横山東遺跡群、軽井川南遺跡群など市内のさまざまな遺跡の発掘調査を担当した。異動でしばらく学芸員の仕事から離れたが、図書館に勤務した際に司書の資格を取得。司書の仕事を学んだことで、改めて学芸員の仕事や役割について深く考えるようになった。地域のことを調査・研究して、それに評価を与え、魅力を発信する、それが学芸員の役割だと中野さんは笑顔を向ける。

柏崎地域には、多くの縄文遺跡がある。本県を代表する火焰型土器も見つかっているが、その分布の中心地である信濃川流域とは一線を画し、独自の土器も生み出している。柏崎は信濃川流域に隣接しながら北陸や信濃にも近く、縄文時代には既に多彩な文化が交わる要衝であり、独自の文化が芽生えていたと考察する中野さん。来年度開催予定の縄文土器の企画展に向けて準備を始めている。



2022年度夏季収蔵資料展

アルバムの中の歴史

— 市民が遺したふるさとの記憶 —

2022年8月21日◎まで 入場無料 *常設展示は有料

*感染症拡大状況により変更・中止する場合があります。
最新情報はホームページでご確認ください。

お問い合わせ

柏崎市立博物館 ☎0257-22-0567

開館 午前9時～午後5時（最終入館は午後4時30分）
月曜休館（祝日の場合は翌日）

入館料 常設展示／一般300円 小中学生無料
プラネタリウム／一般280円 小中学生140円